

特集 **すべての人に等しくあるもの**

2~3面 寄稿・中島京子 (小説家)
人間らしく生きる権利について

4~5面 寄稿・藤田早苗 (法学者)
知っておきたい人権のこと

The Young Women's
Christian Association

YWCA

〈第33総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉

女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会

〈ミッション〉

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉

キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

10

OCTOBER
2023

No.776

www.ywca.or.jp

「ない」ことに
されてない？

わたしたちの人権

日常生活で直面する理不尽なこと。その多くが、人権の問題です。

「人権」をよく知らないと、自分の権利が「ない」ことにされているのに、

誰かの権利を奪っているのに、気が付かず、それが当たり前になってしまう。

私たちを守ってくれる「人権」とはなにか、なぜ大切なのか、探してみよう。



人間らしく 生きる権利について

小説家
中島京子

「人権」という言葉は、日本では、なんとなく、あんまり、好かれていない。「正論だけど胡散臭い」とか、「義務も果たさない者が主張する過剰な権利意識」とか、「弱い者の人権だけが主張されすぎる」とか、「貧乏くさい」とか、「とにかくうるさい」とか、とつてもネガティブなイメージがつきまとうている。

これらの「ネガティブなイメージ」は、「人権」そのものとはほとんど関係がない。「人権」は大富豪にも極貧の人にも等しくあるものだ。カルロス・ゴーンが日

本の人質司法の人権侵害を指摘したことを思い出したい。そして生まれたばかりの赤ん坊にもあるもので、「義務」とは関係がない。

「正論だけど胡散臭い」とか「弱い者の人権だけが主張されすぎる」というのは、おそらく「人権」が掲げる理想をいまだ人類が手にしていない現状のせいであらわれる印象なのだろう。「人権が軽んじられる」場面というのは、人が弱い立場に追いやられた場面なのだから、そこで声を上げるのは当然の

ことだ。しかし、どんな理想を掲げようと弱い者が虐げられるのが現実で、それを変えることは不可能だ、という諦めに根差したカッコつきの「リアリズム」が、「あたかも現実を変えられるかのような正論を吐くのは胡散臭い」と結論を出すのだろう。それで、そういうことを聞くのは「とにかくうるさい」となる。

これは、「人権」というものがよく理解されていないから起こってくる問題だと思つ。

「人権思想」はヨーロッパで生まれ、それに依拠したフランス革命などは世の中の仕組みを丸ごと変えた。ヨーロッパでは少なくともウン百年の歴史のある思想ではある。でも、女性も子どもも植民地の人間も、あまねく人類たるもの「人権」があると公式に宣言された「世界人権宣言」が出されるのは1948年のこと。日本でも、憲法に「基本的人権」が謳われたのは、戦後の「日本国憲法」からである。いずれにしても80年に満たない歴史しかないのだから、日本で「人権」があまりよく理

解されていないのも仕方ないかもしれない。しかも、お手本にすべきヨーロッパにだって、悲しいかな、差別や人権侵害はあり、それがカッコつきの「リアリズム」派に、勢いを与える根拠にもなる。

しかし、そこで「リアリズム」なるものに屈して「人権」を諦めていいのかというと、いやいや、自分の利益を考えただけでも、そんなことはできない。

「人権」という考え方は、たとえば突然あなた／わたしに冤罪が降りかかったり、被災して住むところや生きるすべを失ったり、突然家族と引き裂かれたり、大病で体が動かなくなったり、つまりまったく想定外に理不尽な目に遭ったときにすら、あなた／わたしを守ってくれる考え方だからだ。

数か月前のことになるが、裁判所に提出された、名古屋出入国在留管理局の施設で亡くなったスリランカ人女性ウィシユマ・サンダマリさんの、死の直前のビデオの一部を視聴した。彼女は「アネー、アネー」と繰り返しなが



あわせて
読みたい!

『やさしい猫』

中島京子 著
中央公論新社 (2021年)
1900円+税

シングルマザーの保育士ミユキさんがスリランカ人の「クマさん」と出会い、娘・マヤと3人で家族を築いていく物語。「ずっと一緒にいたい」新しい家族のささやかな幸せは、日本の入管制度のはざままで翻弄されていく——。報道だけでは見えにくい人々の姿を、一人の人間、一人の生活者として身近に感じ、想いを馳せることができる。2022年、吉川英治文学賞受賞。2023年6月、NHKで連続ドラマ化。



profile

なかじま・きょうこ

東京都出身。東京女子大学文理学部史学科卒。出版社勤務、アメリカ留学、フリーライターを経て、2003年、『FUTON』で小説家デビュー。10年『小さいうち』で直木賞受賞。14年に映画化。2015年『かたづの!』で柴田錬三郎賞受賞、『長いお別れ』で中央公論文芸賞を受賞。ほかに『平成大家族』『パスティス』『ゴースト』『樽とタン』『夢見る帝国図書館』『ムーンライト・イン』『オリーブの実るころ』など著書多数。

ら何度も、病院に連れて行って、点滴して、と懇願していた。「アネー」というシンハラ語は、命乞いを意味するという。「どうか私の命を助けてください」という言葉を喉から絞り出しながら、ウイシユマさんは亡くなっていった。あきらかに死の危機に瀕していた彼女のために、入管職員が救急車を呼びさえしたら、ウイシユマさんの命は失われることはなかった。

わたしの中に怒りがむくむくと湧いた。人間として当たり前扱いがなされなかった。彼女のひととしての尊厳が、踏みじられた、と思った。

彼女の生を踏みにじる理由がどこかにあるだろうか。オーバーステイをしていたから？ 日本人ではないから？ DV男に騙されていたから？ 退去強制に応じないから？

しかし、これらの条件ゆえに「彼女を人間らしく扱わなくてもいい」と思うことは、不可能だ。「在留資格がない外国人を人間として扱う必要はない」と聞けば、誰だって心底恐ろしくなるのではないだろうか。ネットの匿名投稿などには、そうした言説もあるが、それがまともな意見ではないとわかっているから、匿名に隠れて落書きのよ

うに書くんだろう。

「人権」とは、「人間として扱われる権利」「人間らしく生きる権利」のことだ。世界人権宣言第一条には「人は、生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とについて平等である」と記してある。

この「生まれながらにして」というのが極めて重要だ。もし、仮に、ここになんらかほかの条件がついてしまい、権利を持てる人間と持てない人間の間に線引きをしてしまうと、それはもう「人権」ではなくなり、なにか別の、条件付きの

権利に変質する。そうなったときに、あなた／わたしが、必ず条件のいい方、権利が保障される方にいられるとは限らない。どこかで、権利に線引きを行ったら、その線はいつ、あなた／わたしを齧るかかわらなくなる。

だから、けっして「人権」を分断してはいけない。人種にも性別にも信仰にも貧富にも、年齢にも思想にも何にも分断されない、「人間として扱われる権利」を死守しなくてはいけない。「人権」とはそういうものだ。きわめてリアルな、あなた／わたしを守る権利なのだと思う。

私たちの人権

どうなの？

どうする？



法学者／エッセックス大学人権センターフェロー

藤田早苗

そもそも人権ってなに？

昼休みの学食で「席がなかったから私、人権ない」——最近、このように「人権」という言葉をミームのように使う若者が増えています。

「人権」って、なんででしょう？ 理解しているようにも、きちんと説明できず、どうか。自分にはあまり関係ないと感じていませんか？ 実は、人権とはとても具体的で身近なものです。

まず「人間らしく生きるために不可欠なもの」には食べ物、住居、自由に移動できること、情報を得ること、差別されないことなどいろいろあります。これらは「食糧への権利」「居住の権利」「移動の自由」「知る権利などの」情報の自由「差別的禁止」という「人権」なのです。人権は国連が作成した国際人権条約に具体的に規定されていますし、日本国

憲法やほかの国内法にも含まれています。あらゆる権利の中でも、特に「人間らしく生きるため」に不可欠なものが人権で、私たちは毎日、人権を行使して生活しているのです。

人権の実現は政府の義務

日本では「人権とはやさしさ、思いやりだ」と誤解されがちです。例えば「視覚障害者の人が交通量の多い道を渡れずに困っていたら、手を引いて渡らせてあげる、これが人権だ」という具合です。もちろん思いやりは大事です。しかし、これだけでは不十分なのです。

なぜなら、いつも親切な人がいるとは限りません。邪魔する人がいたり、「障害者外出禁止」なんて変な法律があったりしたらどうでしょう。「思いやり」だけでは「移動の自由」という人権が実現しないことがわかります。

人権について国連は次のように説明しています。

「生まれてきた人間すべてに対して、その人が可能性・能力を発揮できるように、政府はそれを助ける義務がある。その助けを要求する権利が人権。人権は誰にもある。」

つまり、人権の実現には、政府が義務を負うのです。先ほどの例では、音が出る信号を設置する、邪魔する人を取り締まる、移動の自由を不当に制限する法律は廃止する、などが求められます。

世界人権宣言やそれを土台にして作られた複数の人権条約には、私たちの人権と、それを実現するための「政府の義務」が具体的に書かれています。

本来の人権教育と私たちの権利

「人権教育」とは本来、私たちの人権にどういったものがあり、侵害された場合

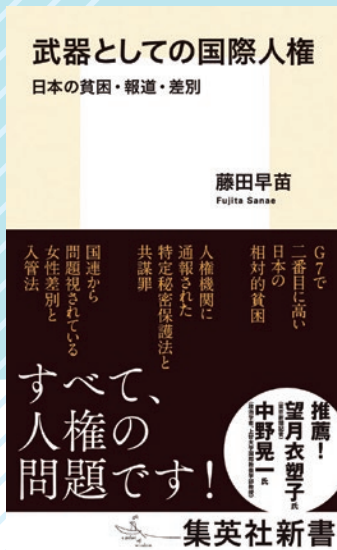
はどうすべきか、を教えるものです。

私が住んでいるイギリスでは小学校から人権を教えていて、子どもたちも知っています。自分たちの権利を知らない、侵害されても被害だ、人権侵害だ、と認識できません。

その例が、ジャーニーズ事務所における性被害問題。当時まだ子どもだった多くの被害者は、ジャーニー喜多川氏から受けている行為を「被害」だと認識しておらず、「被害だとわかっていたら逃げていた」とも言っています。

若者の犠牲者が多い「ブラックバイト」もそうです。残業代の不払い、ひどいセクハラ・パワハラ、罰金を求められる、納得できない理由でのクビ、などの不当な扱いを受けることがあります。しかし、バイトであっても法律上は「労働者」なので、権利で守られているのです。最近イギリスで、高校生がバイト先のマクドナルドでセクハラがひどいと訴えて、ニュースになりました。

権利を知っていれば自分を守ることができます。労働者の権利とは何か、どのように権利行使ができるのかを学ぶのも「人権教育」の一つです。だから人権は、とても身近なものなのです。



あわせて読みたい!



『武器としての国際人権 日本の貧困・報道・差別』

藤田早苗 著
集英社新書 (2022年)
1000円+税

「人権」は個人の善意ではなく、政府の政策によってこそ保障されるべきもの。だが日本政府は、国連人権機関を通して度重ねて調査報告や勧告を受けているのに、聴く耳を持たない。そんな政府の対応に市民の危機感が希薄なのは、人権教育や報道に問題があるためだ。そうした日本の現状に照らして、さまざまな具体的な問題点について、国際人権の研究者かつアクティビストとしての知見や経験を交えて丁寧に伝えようとする、著者渾身の一冊。



profile

ふじた・さなえ

大阪府出身。名古屋大学大学院国際開発研究科修了。エセックス大学で国際人権法学修士号、法学博士号取得。現在、エセックス大学人権センターフェロー。英国在住。2013年「特定秘密保護法案」、17年「共謀罪法案」を英訳して国連に通報し、危険性を周知。16年の国連特別報告者（表現の自由）日本調査実現に尽力。定期的に帰国し、大学生や市民を対象に講演を行うなど、日本の人権状況向上のため国内外で活動。

「思いやり」「わがまま」ではない

日本では「人権」と「思いやり」が混同されていますが、両者は別ものです。人は自分の仲間には思いやりを持つことは難しくないでしょう。しかし自分と異質な人たち、偏見を持つ相手には、違う態度で接したり、差別的な扱いをしたりする傾向があります。その究極の形が、特定の民族集団に対する人種差別政策、迫害として、600万もの人が犠牲になった、ナチスによるホロコーストです。

「すべての人に等しく人権がある」という普遍的な人権概念がきちんと社会に根付かなければ、同様の被害は、いつでも

どこでも起こる危険性があります。

また、人権を主張することに対して「わがままだ」という意見があります。では「わがまま」とはなんですか？ 誰かと分ける食べ物を独り占めするのはわがままです。しかし、人権を侵害されている人が状況の改善を求めて訴えるのは、その人たちがそうした状況に迫りやってくる環境や構造に問題があるからです。それを「そのくらい我慢しろ」と言うところこそ「わがまま」ではないでしょうか。

みんなが生きやすい社会へ

人権を主張し、不均衡の是正を訴える

人は、自分のためだけでなく、後世の人たちが同様の不当な扱いを経験しなくて済むように声を上げていく側面もあります。その勇気によって社会がようやく問題点を認識し、実際に法や制度が改善されてきたケースもたくさんあります。

例えば、今の日本や多くの民主国家では政治に参加することも教育を受けることも、制度上は男女の差別はありません。しかし100年前は違いました。「女性である」というだけで、こうした基本的な権利が認められていなかったのです。女性たちが声を上げ、犠牲者を出しながら闘ってきた結果、だんだんに今のようない権利が女性にも認められてきたのです。

私たちは、そんな先人の闘いの恩恵にあずかっているわけです。私たちもまた、自分が当たり前と感じている権利や自由を次世代のためにも守り、目の前に問題があれば取り組んで改善していく必要があります。

まずは「人権の視点」で社会を見てみましょう。これまで見えなかった問題に気づき、日常生活のさまざまな選択や決定に変化があるはず。例えば有権者として、消費者として、労働者として私たちの意識が変わることで、学校、職場、地域に影響を与えていく。こうした積み重ねによって、多くの人が生きやすい社会へと改善されていくでしょう。



『THIS IS JAPAN 英国保育士が見た日本』

ブレイディみかこ 著
新潮文庫 (2020年) / 590円+税

英国で保育士として働き、20年ぶりに帰国すると、日本はいまだに「一億総中流」の幻想に覆われていた。そこからこぼれ落ちた生活困窮者や路上生活者たちに対する社会の眼差しは冷ややかだ。当人たちも団結して窮状を訴えるでもなく、心を折られ、ひっそりとしている。英日で「地べた」の人々を観察した筆者は、そこに両国の人権観の違いを見る。権利は決して義務と引き換えに得られるものではない。著者はいう。人間がすべての力を、尊厳さえも失ってしまったとき、最後まであるのが人権だ。人権はもっと野太い、と。



『きみの人生はきみのもの 子どもが知っておきたい 「権利」の話』

谷口真由美・荻上チキ 著
NHK出版 (2023年) / 1400円+税

子どもには、子どもならではの権利がある。「校則が厳しい」「いじめられて、学校に行きたくない」「家に居場所がない」「親や先生に体を触られる」「お金がなくて高校に行けない」「親のしつけが理不尽」など、子どもが抱えている24の悩みや困った状況を取り上げ、それに対する「権利」を説く。自分で考えて行動し、解決していくためのヒントや知識、情報が満載。がまんするのではなく声を上げて誰かを頼る、生きていくための手引きになる一冊。これまで「権利」について学ぶ機会のなかった大人にも薦めたい。

b o o k

「人間らしく生きる権利」 を考えるための本

秋の夜長に、人権についてもっと知って、考えてみませんか。自分の権利、誰かの権利が脅かされても気が付かず、諦めることのないように。

気軽に読めるものから不朽の名作まで、
硬軟さまざまな4冊を紹介します。



『夜と霧 (新版)』

ヴィクトール・E・フランクル 著
池田香代子 訳
みずす書房 (2002年) / 1500円+税

人権を考えるなら、戦争と人間に目を向けたい。第二次世界大戦のホロコーストを生き延びたユダヤ人精神科医の著者が、強制収容所で経験した出来事と人々の姿を克明に記録した本書。戦争とはなにか、戦争はいかに人間から人間らしさを奪うのか。そして、極限状態に置かれた人間の絶望と希望、生きる意味に迫る。原著の初版は1947年。56年に日本語版(旧版)が発行された後、著者のフランクルは77年に改訂版を出版。これに基づいて新たに翻訳されたのが「新版」。旧版よりも比較的読みやすいと評されている。



『みんなたいせつ 世界人権宣言の絵本』

東 菜奈 編・訳
渋谷敦志 写真
岩崎書店 (2018年) / 1700円+税

あらゆる人間が保障されるべき基本的人権を規定した「世界人権宣言」。1948年の採択から75年経っても、世界はこの宣言を実現することなく、今この瞬間も無数の人の人権が奪われている。巻頭の中島京子さんと藤田早苗さんの寄稿でも触れているこの人権宣言。そもそも何が書かれているのか、なぜ重要なのか……。本書は、子ども向けに噛み砕いた訳文と世界の今を映した写真で、その内容と重要性を分かりやすく伝える。人権宣言の2年前に公布された「日本国憲法」とあわせて読んでみたい。



『Rise Up! (立ち上がる)』最新版を發行

若い女性のリードで、社会は変わる!

人権が尊重される社会へと変えていくことができるのは、若い女性の力、リーダーシップです。それは、自分の権利を守り、コミュニティに影響を与え、人々に変革を促していく力。誰の内にもあるものです。日本YWCAは、リーダーシップ・トレーニングガイド『Rise Up! 日本語版』最新版を發行しました。オンライン・コミュニケーション、多様性へのより深いアプローチなど、最新の状況を受けて2017年版から大幅にアップデート。ツールも用語集もさらに充実。ぜひ、ご活用ください。

『Rise Up! 日本語版』
A4版カラー (135頁)
発行/日本YWCA (2023年)
1350円 (国内送料込み)

翻訳スタッフからのメッセージ

「とにかくやってみる」時に役立てて

人権。交差性。インクルージョン。『Rise Up!』にはむずかしい言葉がたくさん出てきます。それでも中学生にも、もしかしたら、なんとなくでいいから理解してもらえたら、なんやよう分からんけど「いいかも」と思ってもらえたら、と思って、できるだけ漢字言葉は使わず、平易な言葉を使うことを目指しました。なぜなら、『Rise Up!』は、若い人たち自身が、自分たちに関わりあることの中から「なんとかしたい」ということを選んで、自分たちが中心になって、何ができるか考える。そして失敗してもいいからとにかくやってみる、そういう時に役立つツールだからです。

できるだけインクルーシブ (包摂的) な表現にすることも心がけました。いろいろな特性や背景やアイデンティティを持つ人たちが集まって、セーフスペースをつくって、話し合っ、何かをカタチにしていくこと。それは、時間もかかるし、むずかしいと感じています。どうやったらそれができるのか、わたしの「リーダーシップの旅」もまだまだ途中で、小さいかもしれないけれども、この一冊が、その一歩になればと思っています。

今回、50名近くの、『Rise Up!』に関心ある人たちといっしょに日本語版をつくることができたことは、とにかく楽しかったです。つくって終わりではなく、実際に使えるものになりたい、使ってもらいたいと思っています。

まずは、パラパラとページをめくるだけでもいいので、手に取ってもらえればうれしいです。ここ、おもしろいかもと思ったら、ちょっと読んでみてくれたら、もっとうれしいです。そして、何かしたいと思ったら、いっしょにやってくれそうな、ミドルやシニアにぜひ声をかけてもらえればと思います。

横浜YWCA 倉戸ミカ

『Rise Up!』3つの魅力

① 世界の若い女性たちが参加

若い女性のリーダーシップ・トレーニングガイドブック『Rise Up!』は、ソロモン諸島YWCAの革新的な取り組みに端を発し、世界YWCAの取りまとめのもと、世界各国の若い女性たちによって作成されました。異なる課題を抱えた国の、多様な立場にある女性たちの知見、経験、思いや声グローバルに編まれています。

② 充実した参加型コンテンツ

「自分の権利とは?」「自己決定とは」「フェミニズムの価値観とは?」などの基礎知識から、実践的なワークショップ・ファシリテーションの手引きまで、必要な学びをカバー。また、手に取る人が、自分の状況に当てはめて活かせるよう、さまざまなケースに応用されることを想定した参加型コンテンツが特色です。自分の内にある力に気づき、活かすトレーニングを目指しました。

③ わかりやすい翻訳

日本語版の翻訳には、YWCA内外から43名のボランティアが参加。『Rise Up!』の趣旨に共感したという、世代も性別も経験も異なる多彩な人々によってわかりやすい翻訳が実現。さらに、原文の熱量そのままに力強い言葉で読者をエンパワーし、リーダーシップの旅へと誘います。

『Rise Up!』体験イベント開催

10月11日の国際ガールズ・デーの夜、『Rise Up!』体験イベントをオンライン開催。京都YWCAユース有志が贈るスペシャル企画です。冊子がなくても参加できます。

詳細・申し込み

<https://www.ywca.or.jp/news/humanrights/gender/riseupevent/>



公式サイトで販売中!

『Rise Up! 日本語版』は日本YWCA公式サイトからご購入いただけます。

<https://www.ywca.or.jp/news/internationalcooperation/rise-up-new-version-2023/>

※PDF版 (20MB) は無料でダウンロードできます。



問い合わせ

公益財団法人日本YWCA TEL. 03-3292-6121



「日韓YWCAカンファレンス」に参加して

考え方のギャップを埋めつつ、理解を深めたい

大阪YWCA会員 飯綱萌

2023年7月7日から3日間、「第11回日韓YWCAカンファレンス」が韓国で開かれました。日本・韓国YWCAが共同で開催するこのカンファレンスは、私のような若い世代に戦争や占領の真実を伝え、相互理解と信頼関係を結ぶ方法を探ることを目的に、1975年から続くプログラムです。今回のテーマは「東アジアの平和と女性の役割」です。会期の前半は「戦争と平和」、後半は「生命と平和」を切り口に、複数のセッション、フィールドワークなどが行われました。

最も強く印象に残ったのが、キム・ヘジョンさんの講演です。彼女は持続可能開発研究センター共同代表で、韓国YWCAで脱核活動家として活躍しています。私は、東京電力福島第一原子力発電

所から出る放射性物質を含んだ処理水が海洋に放出されることに対して、韓国の方がどのような意見を持っているのか、詳しくは理解していませんでした。キムさんの話を聴いて、日本政府に対してかなり批判的な意見を持っていることが分かりました。今年6月に韓国と日本で行われた1000人規模の世論調査では、日本で

60%、韓国で83%が反対したそうです。また韓国では、日本政府の海洋放出に反対する運動やデモが活発に行われ、連日報道されています。今回のカンファレンスも地元のネットニュースなどで取り上げられました。このような声を聴いたことで、同じ問題に対して日本と韓国に温度差があることが分かりました。

2024年2月には、「日韓ユース・カンファレンス」が開かれます。それに向けて、私たちユースがするべきことは、韓国と日本の考え方のギャップを埋めつつ、韓国について深く理解することだと考えます。開催まで約半年となりましたが、実行委員のメンバーと共に準備を進めています。



ご協力ありがとうございます

賛助費

秋元靖子 浅尾治子 浅田啓

安倍愛子 荒川知子 石橋さなえ

石原清美 板橋俊子 井出都

伊藤眞智子 上村愈巳子 内海公子

遠藤眞理 遠藤洋子 大澤恵美子

尾崎敦子 織田光恵 折戸和子

加納美津子 河津百合 川村悦子

北原恵美 桐村巨子 具島美佐子

金剛静恵 篠山淳子 汐崎貞子

首藤和子 杉本康雄 須部道子

諏訪昭子 大工原則子 武井真美子

武内富貴代 田中綾 田中唯彦

俵恭子 寺嶋公子 寺山朝子

常葉俊子 中平多恵子 野澤節子

畑山みさ子 八村悠紀子 花盛静子

原紀子 原美左恵 原田由美子

一杉静子 深田光代 藤井野百合

松岡信子 松田和子 実生律子

森山和子 八木高子 安川美歩

吉岡郁子 吉田紀子

匿名

ピースメーカーズ募金

(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)

井出都 伊藤眞智子 白田治子

遠藤眞理 嘉屋陽子 小村明子

金剛静恵 佐々木洋子 佐藤孔美

汐崎貞子 柴田幸子 清水幸江

谷内基子 俵恭子 常葉俊子

野崎誠一郎 坂内義子 松下真佐子

実生律子 山岡清一 吉高叶

東洋英和女学院中高校宗教委員会

一般財団法人広島YWCA

匿名

災害時支援募金

(国内外の災害被災者支援)

秋元靖子 井出都 伊藤眞智子

白田治子 遠藤眞理 織田光恵

折戸和子 桐村巨子 小村明子

杉本陽子 俵恭子 野崎誠一郎

松下真佐子 松田和子

日本聖公会 宮古聖ヤコブ教会

匿名

(オリープの木キャンペーン募金)

板橋俊子 市川真美恵 井出都

伊藤眞智子 上田理恵子

上村愈巳子 川上哲 北原恵美

小村明子 佐々木温子 佐藤マリ子

杉山知子 田中展子 俵恭子

友田シズエ 林育一郎 原田由美子

横田昌三 吉岡郁子

一般財団法人広島YWCA

匿名

(ウクライナ支援)

橋本文子

静岡英和ミッショナリーハウス

公益財団法人福岡YWCA

(パレスチナYWCA支援)

井出都 伊藤眞智子 上田理恵子

上村愈巳子 白田治子 榎本みつ枝

遠藤眞理 嘉屋陽子 川上哲

北原恵美 小村明子 杉山知子

田崎桂子 田中唯彦 俵恭子

友田シズエ 中山美知子 難波幸矢

野崎誠一郎 橋本文子 安川美歩

吉岡郁子

(ビルマ/ミャンマー支援)

平川幸子

東日本大震災被災者支援募金

田崎桂子 井出都 伊藤眞智子

遠藤眞理 桐村巨子 具島美佐子

小村明子 佐藤マリ子 汐崎貞子

清水幸江 杉本陽子 多喜百合子

俵恭子 中村とよ子 野澤節子

橋本文子 松田和子 実生律子

日本聖公会 宮古聖ヤコブ教会

日本福音ルーテル大森教会

大森ルーテル幼稚園

一般財団法人広島YWCA

匿名

(カーソポーターズ募金)

カーソポーターズ 56件

(2023年6月16日〜8月15日)

敬称略